

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	若葉保育園
日時	令和7年12月11日

1. 活動テーマ

<テーマ>

4歳児…葉っぱのリースを作ってみよう。

<テーマ設定理由>

・クリスマスに合わせて、秋の紅葉した葉っぱを使ってリース作りをする。

2.活動スケジュール

- ・リースに飾りたい葉っぱや飾りを選んで自分だけのケースに入れる。
- ・クリスマスの絵を自由に描き、リースに貼れる大きさに切っておく。
- ・リースにボンドで、葉っぱ、飾り、自分の描いた絵、自分で切った飾りなどを自由に貼る。
- ・最後にリースにリボンを貼る。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・紅葉した葉っぱ（葉っぱや飾りを入れるケース、一人ひとつ）
- ・自分の描いた絵、切った飾り
- ・リース
- ・ボンド ボンドを塗るときのシート 手拭き

4.探究活動の実践

<活動内容>

（前もっての準備）

- ・子どもたちが選べるように、たくさんの秋ならではの葉っぱを用意して、自分で好きな葉っぱを自分だけのケースに入れておく。
- ・クリスマスならではの自分の発想を絵に描いて、リースに貼れる大きさに切っておく。（サンタさん、雪だるまなど自由に）

（当日）

- ・ボンドを使って、葉っぱ、飾りを自由に緑のリースに貼っていく。
- ・自分の好きなように、自分らしいリースをつくる。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>



- ・色とりどりの葉っぱの中から、自分の好きな葉っぱを選ぶ。
- ・ケース一杯に葉っぱを選ぶ子や色形の違う葉っぱを一枚ずつケースに入れる子など様々だった。
- ・ボンド用のシートを一人ひとり用意したが、リースに直にボンドを塗る子も多かった。
- ・「うーん、どうしようかな？」などと言いながらじっくり考えて葉っぱや他の飾りをつける子が多かった。
- ・リースの穴の所にも大きな葉っぱを付けようとしてボンドを付けてくっくと嬉しそうに見せてくれた。その後も大きな葉っぱに小さな葉っぱを重ねて貼る姿もあった。
- ・葉っぱは2、3枚だけ貼ってあとは自分の描いた絵をきれいに並べて貼る子もいた。
- ・赤い小さな葉っぱを自分の3姉妹にたとえて綺麗に並べて「これが〇〇で、これが〇〇」と教えていた。
- ・なかなか貼り始められなかった子も、友達の様子を見ながら貼り、ケースの中の物が全部貼れると「できた」と喜んでた。
- ・一人ひとり自分のリースが出来上がると部屋に飾って、ボンドが乾いてから赤いリボンを自分で貼って完成する。

5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

クリスマスを心待ちにしている子どもたちに「クリスマスリース」を作ること伝えることで、活動への期待が高まり、当日も「何を使おうかな」「どんなふうにしていいかな」と自分で考えながら取り組む姿が多く見られました。季節の行事とこれまでの葉っぱの探究が自然につながったことで、子どもたちにとっても「知っている素材で、行事の作品を作る」という安心感とわくわくが生まれたように感じます。また、一人ひとりのケースを用意し、好きな葉っぱや飾りを自分で選んで入れておけるようにしたことで、「これは自分の」「自分で決めた」という主体性が引き出されました。ケースの中身にも個性が表れ、たくさん集めて意欲的に挑む子、色や形の違いを見比べながら厳選する子など、同じ素材でも“選び方”にその子らしさが出ていたことが印象的でした。制作では、葉っぱだけでなく自分が描いた絵や切った飾りも使ったことで、表現の幅が広がり、作りながら「これはサンタ」「これは〇〇なんだよ」と言葉で説明したり、見せ合ったりする姿が見られました。作品づくりが“手先の活動”に留まらず、自分のイメージを友達や保育者に伝えるコミュニケーションの時間にもなっていたことが、今回の大きな学びでした。さらに、紅葉した葉っぱの赤や黄色が緑のリースに映え、子どもたち自身も「きれい」「ここに貼ったら目立つかな」と色の組み合わせを楽しみながら配置を考える様子がありました。季節の自然物には“美しさ”があり、その美しさに気づいて自分の表現に取り入れられることが、子どもたちの感性を育てることにつながっていると感じます。一方で、ボンドを塗る場所や使い方については、個々のやり方が出やすく、リースに直接塗りたい子もいるなど、工程の理解や手順の見直しには差がありました。次回は、子どもが自分で選べる自由さを残しつつ、「ボンドはここで使うとやりやすい」「乾くまでこう置こう」など、作りやすさにつながる環境設定や、見本の提示の工夫も取り入れていきたいです。